

# まぼろしの白石村

## 題材のねらい

日本には、さまざまな災害があり、先人たちは災害から命や生活、財産を守ろうとしてきた歴史がある。各地域に残る言い伝えの意味を考え、災害に対して関心を高める資料として活用する。

まぼろしの白石村

淡路島には『淡路温故之図』という古い地図が伝わっています。

この地図は淡路島をうまくえがいているのですが、現在の淡路島と見比べると島のかたちが少しちがいます。『淡路温故之図』には、南あわじ市の灘地区から沼島に向けて、現在存在しない土地がえがかれています。そして、この土地にあった白石村ほか5つの村が室町時代の明応9（1500）年の大地震でしずんだと記述されているのです。この大地震、一体どんなものだったのでしょうか。

淡路島が関係する大地震としては、まずはプレート境界型の南海地震があります。明応7（1498）年の南海地震は静岡県浜名湖を海とつなげたといわれますが、『淡路温故之図』はこの地震のことをいっているのでしょうか。

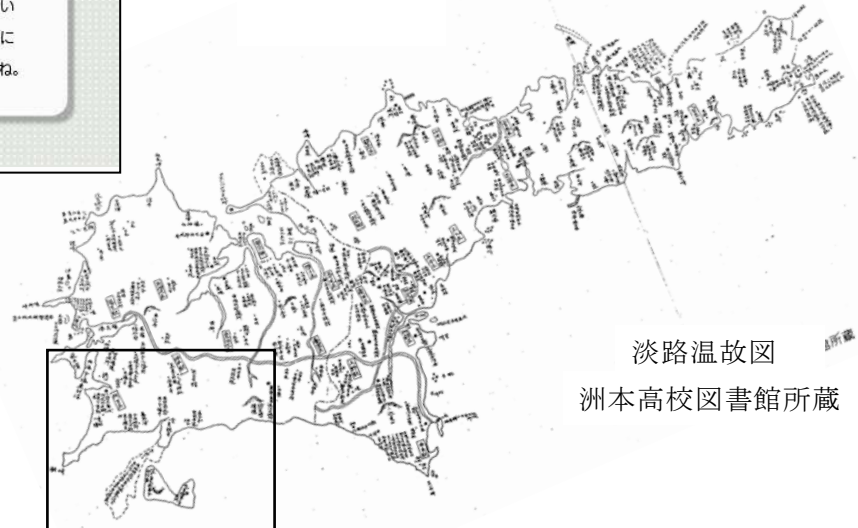
また、淡路島と沼島の間には中央構造線が走っており、この断層の起こす地震などが高さ300m以上のかけをつくってきました。白石村をはずめたのはこの活断層が起こした地震だったのでしょうか。

かつて白石村があったという話は南あわじ市灘地区には長く伝わっており、海がずんでいる日には海底に神社の鳥居が見えるという漁師もいるそうです。そんな土地をしずめる大地震なんてちょっと想像できませんが、そもそも自然の力の大きさというのは人間の想像をはるかにこえたものかもしれません。

37

『淡路温故之図』の中に『此地五ヶ村明應九年大地震淪没』とある。また、地域誌『味地草（みちくさ、江戸時代末）』には、「その昔、灘から沼島に向けて半島が突出していて、白石村外五ヶ村があった。約五百年前の大地震によって海に沈んだ。その白石村に大変心温かい人が住んでいた。田畑も広く耕作していて、裕福に暮らしていた。…今は白石村というところはない…」とある。

わたしたちの住んでいる地域には、こういった史料や民間伝承は数多く残っている。これら地域に残る教材は、子どもたちが意欲的に追求するきっかけとなる。地域を題材とすることで、子どもたちが身近にとらえ、興味や関心を持って防災学習を進めることができるきっかけとしてほしい。



淡路温故図  
洲本高校図書館所蔵

